

令和7年度 自己点検・自己評価まとめ

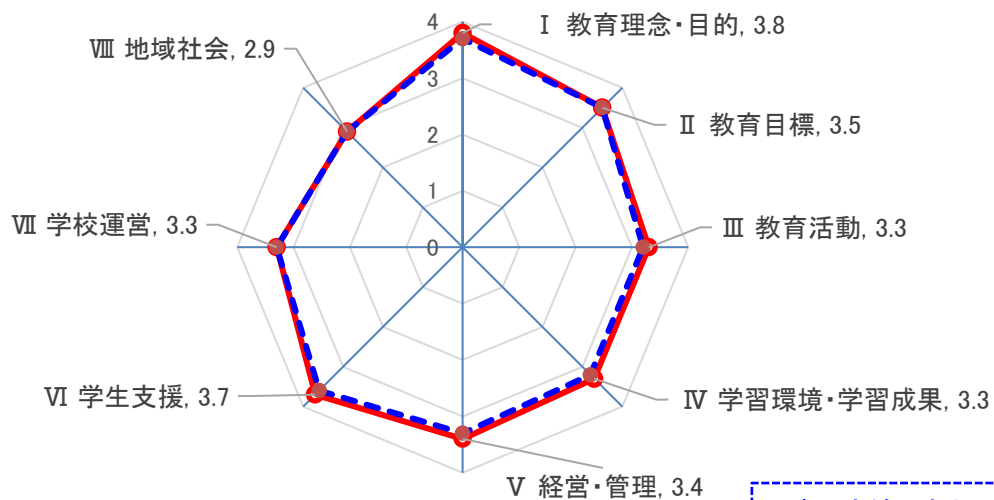
和歌山県立なぎ看護学校

【評価方法及び評価点数】

カテゴリーⅠからⅧについて全教員が評価を行い、その後、学校関係者（外部委員）による評価を行った。

学校の教員分については、「とてもそう思う：4点」「そう思う：3点」、「そう思わない：2点」、「全くそう思わない：1点」として、それぞれの項目（計53項目）について評価し平均値を算出した。

令和7年度の自己評価



青の点線は令和6年度

【現状及び今後の取組】

- 「Ⅱ 教育目標」「Ⅶ 学校運営」「Ⅷ 地域社会」以外は昨年度から 0.1 ポイントアップした。今後も教育内容の充実を図り、目標を達成できるよう具体的な対策を検討していく。実習評価については、ルーブリック評価の評価基準のさらなる明確化と教員間での共通理解を図っていく。評価の低い「Ⅷ. 地域社会」については、地域でのボランティア活動や学校祭を通じて、地域交流の充実を図りたい。
- 学生の背景は多様化しており、学力やモチベーションの個人差が大きい。個々の状況を把握し、保護者とも十分連携しながら支援を継続していく。
- 教員の負担軽減については、主管部局とも十分連携して人員の確保を図っていく。また、教員確保のため、卒業生等に対し採用試験等の周知案内に努める。
- 学生確保については、令和元年度から行っている高等学校訪問を教育学習アドバイザー同行のもと継続し、当校が望む学生像を伝えている。今後も和歌山県南部の高等学校に加え三重県南部の高等学校との連携を強化し、紀南地域の看護師不足の解消に向けて一層の協力を呼びかけていく。本校の魅力を地域内外に伝えるため、ホームページ、広報誌、テレビ番組、オープンキャンパス、ジュニアナーシングスクールを通じて広報を行った。令和7年4月に開設した公式 SNS（Instagram、Facebook）により若い世代への情報発信を強化した結果、入学生の大幅な増加に繋がったが、新たに導入した社会人特別枠入試の受験者は少なかった。引き続き、様々な媒体を活用して、社会人を含めた学生の確保に努めていく。
- 卒業生の就業については、県内病院及び三重県内実習協力病院への就業率が 7 割を超えている。引き続き、実習協力病院との連携を密にし、紀南地域の看護師確保に貢献していきたい。

学校関係者による評価報告書

令和8年7月 和歌山県立なぎ看護学校

外部委員4名(臨地実習施設関係者3名、教育に関し知見を有する者1名)による評価を行った。

自己評価項目	評価結果
総括的評価 評価基準に基づく点検結果 (8領域 53 項目)	・「Ⅱ 教育目標」「Ⅶ 学校運営」「Ⅷ 地域社会」以外は昨年度から向上している。今後も教育内容の充実を図り、目標を達成できるよう具体的な対策を検討していただきたい。 ・評価が低かった「Ⅷ. 地域社会」については、地域でのボランティア活動や学校祭等を通じて、地域交流の充実を図っていただきたい。
重点課題評価	評価結果
I. 教育内容の充実	●国家試験対策(学習支援)について ・令和7年度卒業生について、国家試験合格率が 100%を達成したのは高く評価する。1年次から国家試験対策に取り組んできた結果であり、引き続き学習支援に取り組んでいただきたい。 ●生成 AI の活用ルールについて ・生成 AI を使ってレポートを作成していると思われる学生がいる。学生の間は、まず自分で考える姿勢が大切。学校で生成 AI 活用ルールを策定してもらいたい。 ●再実習について ・病院側は、再実習生の受け入れは負担にはなっていない。教員や指導者がマンツーマンで丁寧に指導できるメリットがある。
II. 職員の質の向上	・計画的に研修や学会に参加し、また和歌山県立高等看護学院と共同でラダー研修を実施したことで、教員の自己研鑽の場が広がったことを評価する。今後も職員の質の向上を図っていただきたい。
III. 働きやすい職場づくり	・休暇の取得や超過勤務時間については改善されている。職員それぞれが働きやすいと思える職場になるよう取り組んでいきたい。
IV. 学生の確保	・Instagramでの情報発信が学生確保に繋がっていることを評価する。高等学校への進路説明会にも積極的に参加している。今後は社会人特別卒受験者の確保にも取り組んでいただきたい。
その他	・令和7年度卒業生は、実習病院への就業率が低い。県外流出を減らし、地元病院への就職促進をお願いしたい。